

令和7年度第2回千代田区産業振興連絡調整会議 議事録

- 日 時：令和8(2026)年1月28日(水) 午後2時00分～午後4時00分まで
- 会 場：千代田区役所 8階 第2委員会室
- 出席状況：出席委員12名
- 千代田区：地域振興部長、商工観光課長、産業企画担当課長、商工振興係長、経営相談・融資担当係長、産業企画担当係長、観光・地方連携係担当係長、事務局2名
- 議 題：
- (1) 令和7年度の事業進捗等の報告について
 - (2) 産業振興基本計画の改定について

(議事要旨)

1. 開会あいさつ

2. 議事

- (1) 令和7年度の事業進捗等の報告について
- (2) 産業振興基本計画の改定について

<事務局から説明>

●：委員からの質疑 ➤：担当者回答

●スタートアップ・エコシステム構築に向けた支援に関する今後の展望について、実際に関与者が集い、交流できる拠点を整備することのことだが、具体的なイメージについて伺いたい。また、地方との連携活動の拡大・推進に向けた計画等の見直し・検討について、これから整理をしていくとのことだが、こういった形で進めていくのか伺いたい。

➤産業企画担当課長) スタートアップに関して、これまで千代田CULTURE×TECHという形でオンライン中心に進めていたが、その効果やメリットを感じる方は一部に限られていたと認識している。またミートアップやビジネスコンテストなどのイベントを開催したが、その活動が地域の方に十分に見える形になっていなかった点が、これまでの反省点である。

今回、秋葉原地域と神田錦町地域の2か所に拠点を設けることを想定しており、そこにコミュニティマネージャーを配置し、地域のステークホルダーの方々との交流を通じたニーズの把握や、その地域を中心に活動している事業者の支援等を積極的に行っていく予定である。また、地域の特性も踏まえた産業振興を考えており、例えば秋葉原の場合はAI、高速通信、先端技術やアニメといった分野での支援を考えている。神田錦町の場合はインパクトスタートアップと呼ばれる方々や、女性起業家を支援する方々と連携しながら産業振興に取り組んでいくことを考えている。

➤商工観光課長) 地方との連携活動の拡大・推進については、商工観光課では姉妹都市等

と連携をしており、また他部署でもさまざまな連携を行っているが、全庁としての連携はできていない状況である。今後どこかの段階で、区として各地方とどのような連携をしていくのか整理が必要だと考えており、例えば今後の計画策定に合わせて庁内で調整を進めていくことも考えられる。

●2点伺いたい。まず創業支援について、令和7年度に経営相談窓口を1つ増設し、利便性を向上させたとのことだが、お客様の満足度や相談件数など、その反応が分かるようなものがあれば伺いたい。またお客様に十分周知されているかについてもお聞きしたい。

2点目は資金繰りの支援に関して、区・保証協会・指定金融機関による三者協調のもと商工あっせん制度を継続して実施していくものと理解しているが、今回焦点を当てたいのは金利が上昇しているときの対応、その中でこちらが聞いている声としては、金利が上がることにに対する相談よりも、資金繰りにおける保証料負担の増加に対する声が大きい。具体的にはコロナ禍では保証料の全額補助があったが、現在は保証料を含めた実質的な負担、金利だけでは見えない保証料を加味した金利に関する声を聞いている。その中でどのような対応が多いかという点、借入れの中身における全ての一本化という相談が多い。東京都の保証協会の制度では、保証料補助が高く、かつ借入れも柔軟に対応してもらえ、大枠ほぼ一本化してもらえるが、区の制度では一本化制度はあると認識しているが、保証料補助の金額を都と比較した場合など、総合的にもう少し充実していればというお客様の声を聞いている。今後その点で検討しているものがあれば伺いたい。

➤産業企画担当課長）創業支援については、今年度から相談員を3名体制に増やしたことで実稼働が増加しており、対応できる相談件数も増えている。また受付システムを稼働した際、チラシの作成や各金融機関にご助力いただき周知を行ったため、利用者は電話をかけずにスマホで簡単に予約が取れるという状況になり、利便性が向上したと考えている。ただ、具体的な声としての把握は現状できていない。

もう1点資金繰りについて、現在、金利の上昇や物価高騰などの影響もあり、そもそも政策金利が上がっている中で名目金利をどうしていくかという点と、なるべく多くの方に制度を利用していただくために、融資上限額の引き上げに関して議論を進めている。現在最終調整中であるため、詳細については少々お待ちいただきたい。また、信用保証料については現時点で具体的な検討には至っていないため、今後改めて詳細な状況を伺いながら、対応可能な点がないか検討していきたい。

●特定創業支援団体の5団体の枠組みの中でも、事業を始めた後の状況を随時共有するような形がいいと思う。また、資金繰りについても区内指定金融機関の1つとしてお客様の生の声をこうしてお伝えすることが事業者支援になると考える。

➤産業企画担当課長）特定創業支援機関という形で皆様にご協力いただき進めている。支援機関同士での情報交換や区からの情報提供を実施し、また区は融資を実行後は事業者と接する機会はほぼないため、ぜひ金融機関の方々からお声をいただけると、より施策に活かしていけると考えている。

●関連して創業支援について、創業者数はアンケートでこれから把握するという点だが、前回分はあるため、令和5年度から現在までの経緯というのは、直近ではないとしても把握できているということか。

➤産業企画担当課長）創業支援を受けた方へ年1回アンケート調査を実施しており、例年5月か6月頃に行っている。創業者数は、例年の推移として増加傾向にあるということは把握している。

●資金繰りについて、件数や金額が伸びている中、実績評価等がC評価と低くなっているが、こういった理由か。

➤産業企画担当課長）融資制度の貸付総額や貸付件数を長期的な推移で見えていくと、やはり減少傾向にあるのが実態としてあり、実際にここ10年ほどで40億円の貸付総額があったものが徐々に減少し、現時点では23億円から24億円ほどになっている。この辺りを少し増加させたいという考えもあり、多少厳しめの評価とした経緯がある。現在制度改正ということで上限額の引き上げを検討しているため、より使いやすいものになれば貸付総額も増加傾向になるのではと思っている。

●区は現在再開発が活発に進んでいるため、人の流れも大きく変化している。その影響でテナントの撤退や入れ替わりが起こり、入れ替わった店舗が商店会に加入してこないため非常に苦勞していると聞く。何か区として地域の商店会への加入促進策を考えていく方針があるのか伺いたい。

➤商工観光課長）こちらについては区としても大きな課題であると考えている。会員が増加するためには求心力や入会したいという何かが必要であり、また継続的にそれらを発信していく必要がある。現在デジタル地域通貨の導入などさまざまな検討に入っているが、そういった支払い関係だけを実施すればいいという話でもないと認識しており、その辺りも含めて今後新たな計画を策定するための会議の場などで、こういった対応が必要か、ご意見をいただきたい。

●デジタル地域通貨は、商店会に加入していないとお金は入ってこない仕組みになっているのか。

➤商工観光課長）例えば商店会に加入していれば手数料が軽減される等の仕組みを想定しているが、実際にこういった形になるか、そもそもデジタル地域通貨になるかどうかも含めてこれから検討していくことになる。

●デジタル地域通貨については一生懸命勉強し、既に実施している3区のなるべく良いところを取り入れて進めていきたいと思っている。

創業支援に関連して、創業する際は私どもも大分応援しているが、その後1年で退会される場合が多い。骨を折って協力し、良い条件で融資を受けてもすぐに退会されてしまうため、その辺りの対応を区も一緒になって検討を進めて欲しいと考える。また商店会は振興組合も含めて衰退しており、何とか良い方向へ向かうため祭りやイベントと協力している。そこで補助金に関する補助率の見直しをすることだが、10分のいくつではなく、10/10出すくらいの意気込みで、難しいことは承知の上だが検討して欲しい。さくらまつりについても、商店街はお客様を呼び込むため努力しているが、千鳥ヶ淵ボート場の料金はさくらまつりの時期は大分上がるそうだが、その辺りはいかがか。

➤商工観光課長）過去の経緯で、自主自立的な運営をしていただくため振興組合になることを勧めた経過がある。その中で振興組合と通常の商店会は補助率が異なるということもあり、振興組合は100万円以下で11/12となっている。10/10の場合は補助ではなく委託の

ようになるため検討が難しいところではあるが、振興組合でない任意の商店会については今年度から補助率を上げているところである。

また、千鳥ヶ淵ボート場については令和8年3月から新料金となり、通常期はこれまで500円だったが、海外の方も非常に多いということもあり、通常期で一般の方は1,000円となる。観桜期はまた別料金の設定をしており、これまで800円だったところ、一般の方は1,500円とし30分単位となる。初めて区民料金を設定し、区民はこれまでと変わらず利用してもらえるように設定した。千鳥ヶ淵は世界的に見ても非常に桜で有名な場所であるため、ボートも利用していただきつつ、商店街などの周囲にも足を運んでもらう取組ができればと考えている。

➤観光協会事務局長) 観光協会では区と連携しながらさくらまつりや千鳥ヶ淵のライトアップを実施している。商店街を応援するためだけの目的ではないが、特設ウェブページを設け、区内各所のさくらや春のイベント情報を掲載しているほか、来街者が花見とあわせて楽しめるよう「得とく周遊キャンペーン」を昨年から実施し、協力店舗の情報も掲載している。さくらの時期は来街者が最も増える時期であり、観光協会のウェブサイトの閲覧数も多くなるため、今回も近日中に募集案内を行い、情報掲載を進める予定である。こうした取組を通じて、地域一体となって消費向上につなげていきたいと考えている。

●基本方針にはウォーカブル、地域の魅力発信や資源発掘という多岐にわたる取組があり、一定の成果を上げていると思っている。その中で観光については、インバウンドが過去最高を更新する中で、観光が量から質へ転換していく局面にあると認識している。東京都の調査によれば、国内観光客の受入れに対しては前向きな意識が高まっている一方、訪日外国人観光客については、受入れ意向がやや慎重・消極的であるというデータも示されている。今後、訪日外国人が2回目、3回目とリピーターという形になると、同じ場所への訪問ではなく、地域の路地や商店街へ訪問することも増えると、これまで想定していなかった課題も出てくると思われる。特に、食べ歩きに伴うごみの問題など、受入環境とのアンバランスさも出てくる。そういった点で、これまで区民から寄せられた観光に関する声がどういったものか、今後区民と観光が共生する取組を進める考えがあるのかを伺いたい。

また、観光目的のWi-Fiを撤去したとの説明があったが、観光目的ということを指定できるものなのか、何か貸与されていたものだったのか、その辺りも伺いたい。

➤商工観光課長) 前回の会議でもインバウンドに関しては意見が出ており、例えば外国人がトイレを使ってかなり汚して帰ってしまう等、その対応に非常に苦労したという話があった。また、秋葉原にいらっしゃる方へアンケートを取った際、秋葉原は外国人が多く、ごみの問題もあり少し街が汚く見えるという意見もあった。今後の取組としては、地域ごとの対応、神保町なら神保町、秋葉原だったら秋葉原という形でまず取組を進め、そこで良い結果が出れば他の地域でも取り入れるといった取組方針にすることを検討している。

➤地域振興部長) 補足として、東京都が宿泊税を定額制から定率制へ見直す動きの中で、今後は宿泊税の活用を含め、東京都と連携すべき要素が増えていくと考えている。近年、インバウンド観光に対して一部ネガティブな側面も見受けられるが、地域経済の観点から、インバウンド需要が今後も重要であるという認識は変わらないと考える。一方で、ここ数年で「観光公害」という言葉が生まれるなど、文化の違いを背景とした課題も多くあり、

具体的な対応が求められている。

また、区は観光による経済効果が直接的な財源確保につながりにくい財政構造にあることから、東京都の宿泊税を活用した事業の方向性も踏まえ、東京都や観光財団と協調しながら、インバウンド観光に伴うネガティブな側面への対応と、併せて適切な情報発信に取り組んでいきたいと考える。

➤商工観光課長) Wi-Fiに関しては、商工観光課が関与して観光目的で設置したものであり、例えば駅の周辺や商店街などに設置している。また他の所属で管理している防災対策としてのWi-Fiもあり、公園や区の庁舎に設置している。それらの中で商工観光課が設置しているものは観光目的と説明した。こちらは令和8年度をもって全部撤去する予定。

●神保町が世界一クールな街として紹介されたことに伴い、外国人が非常に増え、Wi-Fiに関しても多くの質問を受けている。Wi-Fiの番号を聞かれた際、カフェを利用するお客様にはパスワードを伝えているが、区のWi-Fiを伝えればもっと便利だったと思った。観光目的のWi-Fiは撤去するとのことだが、Wi-Fiについて尋ねられた際、これですと渡せる案内があると楽であると感じる。また少しでも会話をすると非常に喜んでいただけるため、可能な限りまちを楽しんで欲しいという思いはあり、Wi-Fiを尋ねられた際に区ではこういうのがある、と紹介できると良いと思う。

➤商工観光課長) 区で設置したWi-Fiはかなり利用率が下がっている一方で、費用は継続的に生じるため、撤去する方向ではある。ただ、東京都で設置している場所もあるため、今すぐお伝えは出来ないが、確認して別途お知らせすることは可能。

●商店街と大学との連携支援について、商工会議所ではこれから産官学の連携を進めることを1つの大きなテーマとしている。この中で千代田キャンパスコンソに関して、6大学と2短期大学とあるが、どのような大学が参加しており、またどのような内容の事業なのか伺いたい。

➤商工観光課長) 参加大学は大妻女子大学、大妻女子短期大学、共立女子大学、共立女子短期大学、専修大学、東京家政学院大学、二松学舎大学、法政大学となっている。

➤地域振興部長) 担当のコミュニティ総務課長が不在のため分かる範囲での回答となるが、キャンパスコンソとは6大学が大学主導で連携し、例えば単位の相互認定なども含めて連携する枠組みのこと。その6大学と区が様々な産官学の連携に取り組む中で、これまでお土産ガイドブックなども作成しているが、そういった取組が単位の中でも認められるような仕組みになっている。引き続き産官学連携の取組は我々としても推進していきたいと考えている。

●現在進めているのは、まず初めに二松学舎とインターンシップを実施しようと考えている。

➤商工観光課長) 区内には様々なイベントがあり、キャンパスコンソと連携してイベントのお手伝いをしてもらえないかという話はあるが、相当数が多く、そこまで手が回らないとの話になっている。ぜひキャンパスコンソに限らず、連携協定を結んでいる大学と何かさらに一歩進んだことができないかということは常に考えていきたい。

●各大学には地域連携を担当する職員がおり、そうした担当者にも参画してもらうことで、大学との連携はより一層深まるのではないかと考える。実際に、町会主催の餅つきを実施

した際、二松学舎大学から約20名の学生が参加し、非常に積極的に協力してくれた。学生にとっては単位取得につながる取組であったこともあり、町会側としても大変助けられ、行事全体が大いに盛り上がった。

（２）千代田区産業振興基本計画の改定について説明

現行の基本計画が令和９年度末を持って計画期間が満了となるため、令和８年度及び令和９年度の２年間で現行計画の改定作業を行う。また、分野ごとに見識を有する方々を中心とした専門部会を編成し、各分野についてより活発な意見交換を行う予定。

●計画の改定について、全体像で階層が４つあるが、どこからが検討の俎上にのるものか。基本理念、基本方針、個別方針、主な取組とあるが、恐らく基本理念は変わらないと思うが、基本方針はどうかといった詳細を伺いたい。

➤商工観光課長）現時点の想定では全てが俎上になる予定であるが、もっとこういう視点が大事ではないか、といった意見があれば変更はあり得る。またこの項目は一緒ではないかという意見があれば統合することもあり得る。現時点でこうなるべき、というものは私どもも正直持っておらず、そこについても意見をいただけると助かる。

➤地域振興部長）区の他の計画でも、改定の中である程度大きく内容が変わることはある。ただ、不易流行である程度現行の計画の基本的な部分というのは変わらない場合もある。今の計画にこだわらず、かといってあまり散らからない範囲の中での議論ができればと思っている。

●前回の計画は商工振興基本計画で、そこに観光も取り込んで産業振興という風に大きくまとめたこともあり、議論を多く行った。産業振興基本計画にしてどうだったのかという、その反省から次が始まるのではと思う。

●区の計画のため、基本方針に全て「千代田区」とついているが、千代田区は意外と言葉としての知名度は弱いというのが観光として非常に課題に感じている。例えば皇居や東京駅、秋葉原などの各地域のネーミングの方が恐らく知名度は高いため、この千代田区という場所をどのように広く認知してもらうか、こういった課題を計画の中に入れることができれば良いのではないか。

閉会